

令和6年度第三者評価 改善状況報告書

令和7年3月31日

施設名	港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂（通所介護）	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区赤坂6-6-14	指定管理者	社会福祉法人 東京聖労院

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和7年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和7年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>施設の事業計画・予算計画の推進に当たっては、経営層が、収入・稼働率・経費・人員計画などの数値目標を設定し、毎月・4半期・半期ごとに進捗状況の確認を行っている。</p> <p>また、毎月の法人運営委員会では計画の進捗確認と見直しを行うと共に、目標数値と実績に乖離がある場合は、毎月の課長会で原因を分析し対策を講じ、計画の実践に取り組んでいる。</p> <p>施設では、事業計画・予算計画について、職員会議や係のミーティング等で周知しているが、生産性や効率性の更なる向上に向け、地域へのアピールや職員募集サイトの充実が望まれる。</p>		<p>施設全体の取組として、業務検討委員会を立ち上げ、1～2か月に1回のペースで開催した。</p> <p>国が求めている生産性向上に必要な項目の「①負荷が集中する時間帯の業務を細分化し、個人に集中することがないように平準化すること」「②利用者の介助に集中して従事する介護職員を設けること」「③いわゆる介護助手の活用（食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ゴミ捨て等、利用者の介助を伴わない業務を集中的に実施する者を設けるなどの取組）を行うこと」「④利用者の介助を伴わない業務の一部を外注すること」について話し合いを進め、各フロアの必要な時間に介護助手職員を配置し対応した。</p> <p>地域へのアピールでは、地域懇談会の開催と共に、福祉避難所の設置訓練に関する説明を地域の皆様へ報告した。</p> <p>職員募集サイトについては、募集状況を毎月確認し、必要な募集をそのタイミングで行っている。</p>	<p>港区介護ロボット等導入支援補助金の検証施設に選定され、生産性向上の専門家や港区介護保険課が、業務検討委員会に参画いただける予定。施設職員のみでは、検討の視野が狭くなってしまふ恐れがあり、専門家や第三者の参画によって、更なる生産性の向上に取り組んでいきたい。</p> <p>こうした取組を地域に積極的に発信し、職員募集にもつながるよう、周知内容や方法を充実させていく。</p>	<p>定期開催中の業務検討委員会において、生産性向上に向けた話し合いを行い、その計画を着実に実践し、地域へのアピールに取り組んでいることが評価できる。</p> <p>今年度は、介護ロボット等導入支援補助金の検証施設に選定されたことを受け、専門家の意見も参考に、更なる生産性向上に取り組むことを期待する。</p> <p>さらに、地域福祉の増進につながるよう、積極かつ効果的な周知についても期待する。</p>
<p>新しいソフトを導入したことによって、パソコンの画面から必要な情報を共有できている。</p> <p>今後はさらに、ホームページやSNS等に使用する写真等をリアルタイムにアップデートできるように、現在の機能の効率的な活用やフロアごとにiPadなどを使用できる仕組みづくりが求められている。</p> <p>各業界で進められている情報システムの使いこなし事例を参考に、今後一層、情報をリアルタイムにアップデートする仕組みづくりの推進が望まれる。</p>		<p>サービスの具体化・見える化に取り組んだ。具体的には、誕生日だけでなく、様々な活動の様子を写真に残し、画像でご家族にお渡しすることで、デイサービスでの様子をわかりやすくお伝えした。ご家族からは、大変好評をいただいた。</p> <p>※ケアマネジャーからも「訪問に行った際、ご利用者からその写真を見せてもらい、楽しそうに話してくれました。」と報告をいただいている。X (旧Twitter) にも活動の報告や月間予定表を掲載し、ご家族や地域の方々からは「登録して確認していますよ。」とお声掛けいただいている。</p>	<p>今年度から、通所介護計画書の作成システムとして「ほのぼの」を積極的に取り入れる予定。</p> <p>これまで、ほのぼの（システム）、出欠表（紙）、活動記録（紙&手書き）と3つの書類やシステムによる確認としていたが、活動記録簿を廃止し、ほのぼのと出欠表の2つで確認作業を完結できるよう調整していく。</p> <p>引き続き、サービスの具体化・見える化を推進し、ご利用者・ご家族・新規利用を検討している方が、施設のイメージやサービスを確認しやすいよう取り組んでいく。</p>	<p>迅速な情報発信に努めていることが伺える。</p> <p>引き続き、効率的かつ効果的な配信方法を検討するとともに、誤配信を防ぐチェック機能の充実についても期待する。</p>
<p>高齢児童交流事業の一環として、併設の「赤坂子ども中高生プラザ」と協力し、「納涼祭」を開催している。施設の利用者や家族、子どもたち、その保護者など、延べ700名が参加した。</p> <p>交流を通じて利用者は楽しい一日を過ごした一方、職員が体調不良を起こすなど、開催時期（夏の暑い時期）の見直しを課題と捉えている。さらに、複合施設の関係者に加え、広く地域住民の参加も期待している。</p> <p>地域住民が一層参加しやすい企画となるよう、時期や広報など、計画の見直しが望まれる。</p>		<p>今年度、久しぶりに1階フロア全体を使って納涼祭を開催した。ご利用者・ご家族・赤坂子ども中高生プラザを利用している子ども達・ご両親も参加し、大変好評いただいた。</p> <p>熱中症対策のため、冷風機等をレンタルしたが、その対策を上回る暑さによって、体調を崩した職員がいた。</p> <p>沢山の方に参加いただけたことは良かったが、開催時期やボランティアの人数等については課題であり、令和7年度に向けて検討していく。</p>	<p>今年度の開催日は、10月25日（土）13時～16時とすることで調整していく。</p> <p>4月から、毎月サン・サンなんで～も祭りの委員会を立ち上げ話し合っていく。地域の方にも参加していただけるよう、近隣の町会にもポスター等をお渡しするとともに、個別訪問などのきめ細かな説明に取り組み、コロナ以前のお祭りに戻していく予定。</p>	<p>サン・サンなんで～も祭りの開催時期を10月の涼しい時期に変更したことは、施設利用者や職員の体調への配慮が伺え、また、地域住民が幅広く参加しやすくなり評価できる。</p> <p>近隣町会にお祭りの開催について事前説明を行うなど、地域一丸となってお祭りを開催していく姿勢が感じられる。</p>